

分母		分子
21	内視鏡切除を受けた胃癌患者数	以下のすべての事項を含む病理組織学的診断が診療録に記載されている患者数 <ul style="list-style-type: none"> <li>・深達度</li> <li>・SM 浸潤度 (SM 癌の場合)</li> <li>・病変の大きさ</li> <li>・組織型</li> <li>・UL 所見の有無</li> <li>・脈管侵襲の有無</li> <li>・水平断端</li> <li>・垂直断端</li> </ul>
22	胃癌に対して内視鏡切除を受け、組織学的検索にて垂直断端陽性、脈管侵襲陽性、深達度がSM2(500 $\mu$ m以上)を認めた患者数	外科的追加切除(リンパ節郭清を伴う)が施行された、または施行されない理由が診療録に記載されている患者数
化学療法		
23	胃癌に対して根治手術を受け組織学的に取り扱い規約 StageII、III の進行癌と診断され6週以内に退院した患者数	S-1療法による補助化学療法の選択肢が提示されたか、または提示しない理由が診療録に記載されている患者数
24	化学療法を受けた胃癌患者数	期待される効果、有害事象に関する説明、および文書による同意署名(本人に説明不可能な場合には代理人に)がある患者数
25	化学療法を受けた胃癌患者数	化学療法中少なくとも2カ月に1回の体重測定がなされた患者数
26	化学療法を受けた胃癌患者数	各クールの開始前に以下の事項が評価されている患者数 <ul style="list-style-type: none"> <li>・白血球数(好中球数を含む)</li> <li>・血小板数</li> <li>・総ビリルビン、AST、ALT</li> <li>・血清クレアチニン値</li> <li>・Performance Status(PS)</li> </ul>
27	初回化学療法を受けた切除不能進行・再発胃癌患者数	少なくとも4ヵ月ごとの画像診断による治療効果判定が診療録に記載されている患者数
28	化学療法を受けた胃癌患者数	毎回診察時、検体検査以外の有害事象の有無が診療録に記載されている患者数
フォロー		
29	Stage III胃癌に対する根治手術を受けた患者数	術後3年間、最低年1度の血清CEA測定および腹部画像検査の施行されている患者数
30	内視鏡切除を受けた胃癌患者数	3年間、少なくとも1年毎に上部消化管内視鏡検査で局所再発、多発癌の有無が検査されている患者数

## E. 肺癌

分母		分子
術前評価		
1	肺癌患者数	診断過程において、侵襲的検査や治療が行われる前に胸部単純CTあるいは胸部造影 CT 検査が行われた患者数
2	診断過程において、中枢神経症状を伴う肺癌患者数	治療開始前に画像診断(頭部 MRI、頭部 CT、特別な理由がない限り造影)が行われた患者数
3	骨転移を疑う臨床症状(骨の痛み、胸痛、血中カルシウム高値、血中 ALP 高値など)がある肺癌患者数	診断過程において、骨シンチグラム、MRI、PET、単純写真のいずれかが行われた患者数
4	肺癌患者数	診断過程において、画像検査が行われて肝臓と副腎の転移の有無について記載されている患者数
5	肺癌に対して手術療法以外の治療が行われる患者数	治療開始前(緩和的放射線療法は除く)に、組織診または細胞診で確定診断が得られた患者数
6	肺癌と診断された患者数	TNM Stage が診療録に記載されている患者数
7	外科切除または根治的放射線治療を受けた肺癌患者数	術前に呼吸機能検査(スパイロメトリー)が行われた患者数
外科療法・病理		
8	臨床 Stage I ~II の非小細胞癌と診断された患者数	外科治療が行われたか、行われない場合にはその根拠が診療録に記載されている患者数
9	生検検体が提出された肺癌患者数	病理診断書に組織型(判定不能な場合には推定組織型)が記載されている患者数
10	手術を受けた肺癌患者数	以下の項目が診療録に記載されている患者数(腫瘍径、腫瘍の発生部位、腫瘍の組織型(腺癌、扁平上皮癌、大細胞癌、小細胞癌、など)、胸膜浸潤の程度、リンパ節郭清個数、転移の有無、切除断端または剥離面における癌細胞の有無、背景肺の所見(著変無し、肺線維症や肺気腫などの)、胸膜播種の有無、悪性胸水の有無)
11	術前化学療法あるいは放射線療法が行われて手術後に病理検体が提出された肺癌患者数	病理的な効果判定がなされ診療録(病理所見書を含む)に記載されている患者数

分母		分子
12	手術検体が病理に提出された肺癌患者数	特殊染色を追加している場合を除き、4週間以内に最終病理診断がなされた患者数
13	外科切除(胸腔鏡下切除を含む)が行われた肺癌患者数	開胸時の胸腔内所見(主腫瘍の位置と性状、胸水貯溜の有無、胸膜播腫の有無)が診療録に記載されている患者数
14	根治手術が行われた肺癌患者数	肺葉以上の肺実質切除が行われるか、行われない場合にはその理由が診療録に記載されている患者数
15	根治手術が行われた肺癌患者数	原発巣の切除に加えて、肺門・縦隔リンパ節の郭清・サンプリングが行われてその範囲を診療録に記載するか、行われない場合にはその理由が記載されている患者数
16	外科切除(胸腔鏡下切除を含む)において胸水がみられた(E0との記載がない)肺癌患者数	胸水の細胞診が行われた患者数
非小細胞肺癌に対する化学療法・放射線療法		
17	75歳未満、Performance Status(PS)0~1でStage III~IVの非小細胞癌と診断され、化学療法を受けた患者数	プラチナ製剤を含む2剤併用療法(塩酸イリノテカン、ビノレルビン、ゲムシタビン、パクリタキセル、ドセタキセル)が行われたか、行われない場合には根拠が診療録に記載されている患者数
18	非小細胞癌と診断され、2剤併用の初回化学療法を受けた患者数	コース数が6コース以下だった患者数
19	非小細胞癌の患者でプラチナ製剤を含む化学療法施行後に増悪または再発したが全身状態良好(PS0~1)な患者数	再度化学療法を行う選択肢について、患者に説明がされた患者数
20	臨床 Stage I 非小細胞癌と診断され、手術が行われなかった患者数	根治的放射線単独治療が行われたか、行われない場合はその理由が診療録に記載されている患者数
21	臨床 Stage III 非小細胞癌(悪性胸水例または悪性心嚢水例を除く)と診断され、(1) PS0~1、(2) 70歳以下、(3) 手術が行われなかった患者数	化学放射線療法が行われたか、行われない理由が診療録に記載されている患者数
22	術後 Stage II、IIIA の非小細胞癌で完全切除された患者数	プラチナ製剤を含む術後化学療法が行われたか、行われない理由が診療録に記載されている患者数

分母		分子
23	非小細胞癌の単発性脳転移(他臓器にも転移がない)と診断され、神経症状のある PS0~1 の患者数	手術あるいは放射線治療が行われた患者数(神経症状による PS 低下を除く)
小細胞肺癌に対する治療		
24	小細胞癌と診断された PS0~3 の患者数	多剤併用化学療法(化学放射線療法の場合も含む)が行われたか、行わない場合はその理由が診療録に記載されている患者数
25	小細胞癌と診断され、シスプラチン/エトポシドまたはシスプラチン/塩酸イリノテカン併用療法を受けた患者数	4 コース以上 6 コース以下であったか、そうでない場合はその理由が診療録に記載されている患者数
26	限局型小細胞癌と診断された患者数	化学療法と胸部放射線療法の同時併用が行われたか、行われない場合にはその理由が診療録に記載されている患者数
27	限局型小細胞癌と診断され、化学療法と放射線療法を併用した患者数	化学療法のレジメンとしてシスプラチン+エトポシドが使用されたか、それ以外の場合は理由が診療録に記載されている患者数
28	小細胞癌に対する初回治療で CR または good PR が得られた患者数	全脳照射(PCI)が行われたか、行わない理由が診療録に記載されている患者数
29	小細胞癌と診断された患者で、初回治療が奏効し治療完了後 90 日以上経過後に初めて再発が確認された PS0~1 の患者数	化学療法が行われたか、行われない理由が診療録に記載されている患者数
放射線治療一般		
30	肺癌に対し、根治目的で放射線治療計画が立てられた患者数	CT シミュレーションによる治療計画が行われた患者数
31	局所進行非小細胞癌と診断され、根治的胸部放射線治療(化学放射線療法を含む)を受けた患者数	通常分割照射の60Gy 相当以上の線量で照射が行われたか、行われない場合にはその理由が診療録に記載されている患者数
32	PS0~1 の限局型小細胞癌に対して同時化学放射線療法を受けた患者数	1 日2回照射が行われた患者数
33	肺癌に対し、胸部放射線治療を受けた患者数	目的、方法、有害事象(急性障害及び慢性障害)について説明がなされ、そのことが診療録に記載されている患者数

分母		分子
有害事象のフォロー		
34	肺癌に対し、胸部放射線治療(化学放射線療法を含む)を受けた患者	照射期間中に急性障害(食道炎、皮膚炎)について、また照射終了後6ヶ月以内に、慢性障害(肺臓炎、脊髄症)の有無について診療録に記載されている患者数
35	肺癌に対し、静注化学療法(化学放射線療法を含む)を受けた患者数	各クール開始前または1ヶ月に1回以上、以下の検査がなされている患者数 ・血算、肝機能(AST、ALT、T-Bil)及び腎機能(BUN、Cr)、LDH ・胸部X線

#### F. 緩和ケア

分母		分子
疼痛管理		
初期評価		
1	がんと診断された患者数	診療録に疼痛の有無もしくは程度の記載がある患者数
2	がんの治療のために入院した患者数	診療録に疼痛の有無もしくは程度の記載がある患者数
3	がん疼痛にオピオイドを開始する患者数	診療録に疼痛の定量的疼痛スケールによる程度の記載がある患者数
4	新たにオピオイドを開始する疼痛があると認められた患者数	診療録に、(1)疼痛の1日の変動パターン、(2)増悪・軽減因子、(3)疼痛の性状の中の1つ以上の評価の記載がある患者数
5	疼痛が新たに認められた患者数	診療録に疼痛の原因評価の記載がある患者数
疼痛マネジメント		
6	オピオイドを使用しておらず、非オピオイド系鎮痛薬を使用しており、中程度以上の疼痛が2週間以上持続した患者数	オピオイド系鎮痛薬が投与された、または投与されなかった理由の診療録への記載がある患者数
7	疼痛に対してオピオイドを開始した患者数	開始時の教育提供と教育についての診療録記載がある患者数
8	長時間作用型オピオイド処方を開始した患者数	「疼痛時」の短期作用型オピオイドが処方されている患者数
9	外来において定期的オピオイド処方を開始した患者数	便通対策が処方・指示された、または処方しない理由の診療録記載がある患者数

分母		分子
10	入院中に中程度～重度の4時間以上持続する疼痛を訴えた患者数	疼痛対策(薬の増強・レスキューの使用)が行われた、行われなかった理由の診療録記載がある患者数
治療効果のフォローアップ		
11	外来においてオピオイドを新しく開始した外来患者数	医師・薬剤師・看護師によって、効果・副作用・服用の継続に対する確認がなされていることの診療録記載がある患者数
12	入院中にオピオイドを新しく開始した入院患者数	医師・薬剤師・看護師によって、効果・副作用・服用の継続に対する確認が3日以内になされていることの診療録記載がある患者数
13	疼痛に対してレスキューを用いた患者数	レスキューの効果評価の診療録記載がある患者数
14	入院中1時間以上持続する重度の疼痛への鎮痛治療を変更した患者数	疼痛軽減の有無の診療録記載があり、かつ、それが12時間以内である患者数
15	2週間継続する中等度以上の疼痛もしくは鎮痛薬の有害作用が確認された入院患者数	鎮痛方法が変更された、もしくは変更のない理由の診療録記載がある患者数
難治性疼痛、副作用、併存症などにおける治療の調節		
16	疼痛に対する薬物治療を1ヵ月以上しているにもかかわらず、疼痛の訴えが続く患者数	疼痛に関する専門スタッフにコンサルトされた患者数
17	骨転移、および疼痛があるとわかっており、1ヵ月以上放射線療法以外の治療が行われており、かつ、その1ヵ月後の時点で、疼痛が続いている記載のある患者数	放射線照射や放射性薬物による治療が提案された、なされない理由の診療録記載がある患者数
18	オピオイド投与を受けており、3日以上連続して眠気を訴える、または意識状態の変化がある入院患者数	眠気の初回記載日から3日以内に、呼吸状況の観察結果の診療録記載がある患者数
19	外来でオピオイドの定期服用を開始した腎機能障害のある外来患者数	モルヒネを選択しない患者数
意思決定		
20	持続注射を用いた鎮静を開始された患者数	患者・家族の意向の診療録記載がある患者数
21	根治不能ながんがあることが新たにわかった患者数	治療に関する希望の診療録記載がある患者数

分母		分子
22	根治不能な進行がん患者が新規の化学療法を開始した患者数	根治を目的とした治療ではないことの説明がなされた診療録記載がある患者数
23	(1) 新規の血液透析 (2) ペースメーカーまたは除細動器の埋め込み (3) 全身麻酔を伴う手術 (4) 経腸的人工栄養 のいずれかが行われた進行がん患者数	直前1ヵ月以内の診療録で当該治療希望の記載がある患者数
24	オピオイドによって疼痛が安定しており、退院希望発言の記載のある入院患者数	3日以内に退院調整が開始された患者数
適切な説明・情報提供		
25	がんと新たに診断された患者数	1ヵ月以内の説明、または説明がない理由の診療録記載がある患者数
26	がんの再発が診断された患者数	1ヵ月以内の再発事実の説明された、または説明がない理由の診療録記載がある患者数
27	がん診断、再発診断を受けた患者数	告知から1週間以内の病状説明、または説明がない理由の診療録記載がある患者数
28	再発がんへの化学療法を受けた患者数	治療目標、予測される合併症の説明があったことの診療録記載がある患者数

疼痛の程度の表記について

軽度：10段階スケールで1-3、5段階スケールで1、または「軽い（軽度）」との記載、  
中等度：10段階スケールで4-6、5段階スケールで2-3、または「中程度」程度に関する記載  
のない痛みの訴え（これは1-3にしたほうがいいかもしれません）

重度：10段階スケールで7以上、5段階スケールで4-5、「強い」痛みなどの記載  
指標候補の表現で「カルテ記載」はすべての記録を含みます。（医師の記録、看護記録など）

資料2 ファイルメーカーカーPro9による、情報収集フォームの例

**基本フォーム**  除外 除外理由  記入者  記入日  研究ID

今回の初発/再発について前医治療の有無  1. 有り  2. 無し  その他... コメントは「その他」へ

初回治療時再発?  初発  再発 治療開始時年齢

組織型  1. 小細胞癌  2. 非小細胞癌 (扁平・腺・大・未分化)  9. 不明  その他... 他 の 患 者 へ

確認済み

**治療前の状況** 治療内容と治療前評価 初回治療の結果とその後の経過

当院における治療内容:

臨床試験  1. 有り  2. 無し 臨床試験同意日

肺の根治を目標とした手術  1. 有り  2. 無し 初回手術日  手術

全身化学療法  1. 有り  2. 無し 初回化学療法日  化学療法

肺への放射線療法  1. 有り  2. 無し 初回放射線治療日  放射線療法

治療前PS  不明ならば99を記入

1 手術が有る場合、カルテに記載無くても手術記録に記載がある場合有り

・手術なしで他の治療が始まっている場合、治療開始前に、組織診or細胞診で確定診断あったか:  1. 行った  2. 行わなかった

(他院での診断を含む)

・より前の何らかの画像検査による副腎転移の有無  1. 有り  2. 無し  3. 記載無し

adrena! n. p. 「大きき正常」などは無しという記載とする

## 手術関連

手術日  術式  胸腔鏡下のみの手術  1. はい  2. いいえ  3. 不明  研究ID

郭清 (ND)・サンプリング:  肺葉切除をしない理由記載  1. 有り  2. 無し  3. 不明

ない場合、理由 →  不明な場合の記載

cT  cM  cStage  s Stage

根治度 R:  R0/complete  R1  R2  incomplete  記載無し  その他...

手術所見(開胸時の肉眼所見、手術記録のみを見る)

主腫瘍の位置   99. 記載なし

↑SOとの記載や、上 (U)・中 (M)・下 (L) の肺葉

胸水貯留の有無 E:  0  1  2  X  記載無し  胸水貯留の具体的記述

胸膜播種 D:  0  1  2  X  記載無し  胸水細胞診の提出  1. 有り  2. 無し

胸膜浸潤 P:  0  1  2  3  X  記載無し  Eが1以上の時、必ず記入して!!

手術病理所見

↓病理が無い場合には99で

腫瘍径  センチ (最大のもの)

組織型  検体提出日  最終判定日

リンパ節郭清回数  /  ←病理の最終診断で「Total」を見る

Macro 10. 背見肺の所見

Micro 3. 切除・剥離断端  1. 陽性  2. 陰性  3. 判定不能  9. 記載無し  悪性胸水:

特殊染色の追加  1. 有り  2. 無し

術前化学療法の有無  1. 有り  2. 無し  有る場合 → 病理的な効果判定が行われているか  1. はい  2. いいえ

術後化学療法

術後病期 II、III A の非小細胞肺癌で、完全切除か

術後化学療法有無  1. 有り  2. 無し  開始日

↑臨床試験に入っているも、有り

ソート  もう一枚  基本フォームへ

後で削除  削除

## Ⅱ. 研究成果の刊行に関する一覧表

## 書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
榎本雅之、 <u>杉原健一</u>	ガイドラインに基づいた大腸癌の標準治療 大腸癌治療ガイドライン—作成委員の立場から—	医学のあゆみ別冊 消化器疾患	医学のあゆみ別冊 消化器疾患	医歯薬出版	東京	2006	642-645
			最新医学	最新医学社	東京	2006	別冊 227-234
濱島ちさと	II. Principles of Oncology.	日本臨床腫瘍学会 編集	新臨床腫瘍学—がん薬物療法専門医のための—	南江堂	東京	2006	141-162
<u>島田安博</u>	化学療法	監修:武藤徹一郎 編集:杉原健一, 多田正大, 藤盛孝博, 五十嵐正広	大腸疾患NOW2007	日本メディカルセンター	東京	2007	37-42
<u>島田安博</u>	切除不能・転移性進行大腸がんに対する標準的 化学療法のエビデンス	島田安博 編	大腸がん標準化学療法の 実 際 FOLFOX/FOLFIRI 療 法の臨床導入	金原出版	東京	2006	11-20
<u>Norihito Kokudo,</u> <u>Masatoshi Makuuchi,</u>	Case 42. Hepatoma with cirrhosis.	Clinical scenarios in surgical oncology.	Vijay P. Khatri Ed.	Lippincot Williams & Wilkins	Philadelphia	2006	178-182

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Iwasaki M, Yamamoto S, Otani T, Inoue M, Hanaoka T, <u>Sobue T</u> , Tsugane S.	Generalizability of relative risk estimates from a well-defined population to a general population.	Eur J Epidemiol	21(4)	253-62	2006
Kitajima T, Nishii K, Ueoka H, Shibayama T, Gemba K, Kodani T, Kiura K, Tabata M, Hotta K, Tanimoto M, <u>Sobue T</u> .	Recent improvement in lung cancer screening: a comparison of the results carried out in two different time periods.	Acta Med Okayama	60(3)	173-9	2006
Marugame T, Kamo K, Katanoda K, Ajiki W, <u>Sobue T</u> .	Cancer incidence and incidence rates in Japan in 2000: Estimates based on data from 11 population-based cancer registries.	Jpn J Clin Oncol	36(10)	668-75	2006
Kohno T, Sakiyama T, Kunitoh H, Goto K, Nishiwaki Y, Saito D, Hirose H, Eguchi T, Yanagitani N, Saito R, Sasaki-Matsumura R, Mimaki S, Toyama K, Yamamoto S, Kuchiba A, <u>Sobue T</u> , Ohta T, Ohki M, Yokota J.	Association of polymorphisms in the MTH1 gene with small cell lung carcinoma risk.	Carcinogenesis	27(12)	2448-54	2006
Hamashima C, <u>Sobue T</u> , Muramatsu Y, Saito H, Moriyama N, Kakizoe T.	Comparison of observed and expected numbers of detected cancers in the research center for cancer prevention and screening program.	Jpn J Clin Oncol	36	301-8	2006
Kamo K, Kaneko S, Satoh K, Yanagihara H, Mizuno S, <u>Sobue T</u> .	A Mathematical Estimation of True Cancer Incidence Using Data from Population-based Cancer Registries.	Jpn J Clin Oncol	37(2)	150-5	2007
<u>祖父江友孝</u>	【わが国におけるがん検診の現状と問題点】 がん検診の意義 がん検診の有効性評価 ガイドライン作成手順(解説/特集)	クリニカルプラクティス	25(4)	240-243	2006
<u>祖父江友孝</u>	死亡減少につなげるためのがん検診(総説)	日本がん検診・診断学会誌	132(2)	92-97	2006
<u>祖父江友孝</u> , 味木和喜子	【肺癌 up-to-date】 癌登録に関する最近の動向(解説/特集)	日本胸部臨床	65 巻増刊	S95-S101	2006

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
<u>祖父江友孝</u>	間接写真での集団検診(解説/抄録あり)	肺癌	46(7)	859-862	2006
<u>祖父江友孝</u>	【がん対策】 がん登録の意義と課題 がん登録の意義とその有効活用例(解説/特集)	公衆衛生	71(1)	27-30	2007
<u>祖父江友孝</u>	わが国のがん登録の体制整備について(解説)	呼吸	26(1)	31-35	2007
<u>祖父江友孝</u>	がん検診の有効性評価ガイドライン	EBM ジャーナル	8	6-12	2007
濱島ちさと, <u>祖父江友孝</u>	【健康診断をめぐって】 がん検診の現状と展望(解説/特集)	総合臨床	55(5)	1416-1422	2006
濱島ちさと, 北沢直美, <u>祖父江友孝</u>	がん検診におけるインフォームド・コンセントの改善 国立がんセンターがん予防検診・研究センターの経験を踏まえて(原著論文/抄録あり)	日本がん検診・診断学会誌	13(2)	183-192	2006
片野田耕太, 邱冬梅, <u>祖父江友孝</u>	【がん薬物療法の最前線】 今後どんながんが増えるか?(解説/特集)	臨床と研究	83(5)	629-635	2006
深尾彰, 濱島ちさと, 渋谷大助, 山崎秀男, 井上和彦, 齋藤博, <u>祖父江友孝</u> , 「がん検診の適切な方法とその評価法の確立に関する研究」班胃がん検診ガイドライン作成委員会	有効性評価に基づく胃がん検診ガイドライン(普及版)(解説)	癌と化学療法	338(8)	1183-1197	2006
中山富雄, 佐川元保, 遠藤千顕, 濱島ちさと, 齋藤博, <u>祖父江友孝</u>	有効性評価に基づく肺がん検診ガイドラインの作成(解説)	CT 検診	13(3)	225-230	2006
富田哲治, 佐藤健一, 川崎裕美, 島本武嗣, 中山晃志, 片野田耕太, <u>祖父江友孝</u> , 大瀧慈	がん死亡危険度の経年変動を解析するための統計的方法の開発(会議録)	広島大学原爆放射線医科学研究所年報	47号	112	2006
佐藤健一, 早川式彦, 隅田治行, 大瀧慈, <u>祖父江友孝</u>	レコードリンケージにおける個人同定処理自動化に有効な統計的方法の開発(会議録)	広島大学原爆放射線医科学研究所年報	47号	112	2006

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
丸亀知美, 祖父江友孝	喫煙以外の肺がんリスク要因(解説)	呼吸器科	10(4)	340-344	2006
西本寛, 祖父江友孝	知っておくべき新しい診療理念が ん診療連携拠点病院(解説)	日本医師 会雑誌	135 (10)	2226- 2227	2007
Evans E, Imanaka Y, Sekimoto M, Ishizaki T, Hayashida K, Fukuda H, Oh EH.	Risk adjusted resource utilization for AMI patients treated in Japanese hospitals.	Health Economic s	16 (4)	347-3 59	2007
Sekimoto M, Imanaka Y, Kitano N, Ishizaki T, Takahashi O.	Why are physicians not persuaded by scientific evidence? A grounded theory interview study.	BMC Health Services Research	6	92	2006
Sekimoto M, Imanaka Y, Hirose M, Ishizaki T, Murakami G, Fukata Y.	Impact of treatment policies on patient outcomes and resource utilization in acute cholecystitis in Japanese hospitals.	BMC Health Services Research	6	40	2006
Ishizaki T, Yoshida H, Suzuki T, Watanabe S, Niino N, Ihara K, Kim HK, Fujiwara Y, Shinkai S, Imanaka Y.	Effects of cognitive function on functional decline among community-dwelling nondisabled older Japanese.	Archives of Gerontol ogy and Geriatric s	42 (1)	47-58	2006
Ishizaki T, Kai I, Imanaka Y.	Self-rated health and social role as predictors for 6-year total mortality among a non-disabled older Japanese population.	Archives of Gerontol ogy and Geriatric s	42 (1)	91-99	2006
Kuwabara K, Imanaka Y, Ishizaki T.	Quality and productive efficiency in simple laceration treatment.	Journal of Evaluati on in Clinical Practice	10(2)	164-7 3	2006

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
濱島ちさと	がん検診におけるインフォームド・コンセントの改善—国立がんセンターがん予防検診・研究センターの経験を踏まえて—	日本がん検診・診断学会誌	13(2)	183-192	2006
Hamashima C, Sobue T, Muramatsu Y, Saito H, Moriyama N, Kakizoe T	Comparison of observed and expected numbers of detected cancers in the research center for cancer.	Jpn J Clin Oncol	36(5)	301-308	2006
濱島ちさと、佐々木清寿	高濃度バリウムによる胃X線検査に関する研究の批判的吟味	日本がん検診・診断学会誌	13(2)	123-134	2006
濱島ちさと	がん検診の現状と展望	総合臨床	55(5)	1416-1422	2006
深尾彰、濱島ちさと、渋谷大助、山崎秀男、井上和彦、齋藤博、祖父江友孝(平成17年度厚生労働省がん研究助成金「がん検診の適切な方法とその評価法の確立に関する研究」班胃がん検診ガイドライン作成委員会)	有効性評価に基づく胃がん検診ガイドライン(普及版)	癌と科学療法	33(8)	1183-1197	2006
中山富雄、佐川元保、遠藤千顕、濱島ちさと、齋藤博、祖父江友孝	有効性評価に基づく肺がん検診ガイドラインの作成	C T検診	13(3)	225-230	2006
Miyashita M, Hashimoto S, Kawa M, Shima Y, Kawagoe H, Hase T, Shinjo Y, Suemasu K.	Attitudes towards disease and prognosis disclosure and decision-making for terminally ill patients in Japan, based on a nationwide random sampling survey of the general population and medical practitioners.	Palliat Support Care.	4	389-98	2006
Miyashita M, Yamaguchi A, Kayama M, Narita Y, Kawada N, Akiyama M, Hagiwara A, Suzukamo Y, Fukuhara S.	Validation of the Burden Index of Caregivers (BIC), a multidimensional short care burden scale from Japan.	Health Qual Life Outcomes	4	52	2006
Koyama Y, Miyashita M, Kazuma K, Suzukamo Y, Yamamoto M, Karita T, Takatori Y.	Preparing a version of the Nottingham Adjustment Scale (for psychological adjustment) tailored to osteoarthritis of the hip.	J Orthop Sci	11(4)	359-64	2006
Morita T, Miyashita M, Shibagaki M, Hirai K, Ashiya T, Ishihara T, Matsubara T, Miyoshi I, Nakaho T, Nakashima N, Onishi H, Ozawa T, Suenaga K, Tajima T, Akechi T, Uchitomi Y.	Knowledge and beliefs about end-of-life care and the effects of specialized palliative care: A population-based survey in Japan.	J Pain Symptom Manage	31(4)	306-16	2006

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Hirai K, <u>Miyashita M</u> , Morita T, Sanjo M, Uchitomi Y.	Good death in Japanese cancer care: A qualitative study.	J Pain Symptom Manage	31(2)	140-7	2006
Morita T, Hyodo I, Yoshimi T, Ikenaga M, Tamura Y, Yoshizawa A, Shimada A, Akechi T, <u>Miyashita M</u> , Isamu Adachi and for the Japan Palliative Oncology Study Group.	Artificial Hydration Therapy, Laboratory Findings, and Fluid Balance in Terminally Ill Patients with Abdominal Malignancies.	J Pain Symptom Manage	31(2)	130-9	2006
中井裕子, 宮下光令, 笹原朋代, 小山友里江, 清水陽一, 河正子.	Frommelt のターミナルケア態度尺度 日本語版の信頼性・妥当性の検討.	がん看護	11(6)	723-9	2006
<u>島田安博</u> .	癌の化学療法マニュアル 総論.	外科	69	86-90	2007
高張大亮, <u>島田安博</u> .	大腸癌に対する抗体医薬.	Pharma Medica	25	15-20	2007
Yamada Y, Ohtsu A, Boku N, Miyata Y, <u>Shimada Y</u> , Doi T, Muro K, Muto M, Hamaguchi T, Mera K, Yano T, Tanigawara Y, Shirao K.	Phase I/II study of oxaliplatin with weekly bolus Fluorouracil and high-dose Leucovorin (ROX) as first-line therapy for patients with colorectal cancer.	Jpn J Clin Oncol	36	218-23	2006
Goto A, Yamada Y, Yasui H, Kato K, Hamaguchi T, Muro K, <u>Shimada Y</u> , Shirao K.	Phase II study of combination therapy with S-1 and irinotecan in patients with advanced colorectal cancer.	Ann Oncol	17	963-73	2006
Sai K, Itoda M, Saito Y, Kurose K, Katori N, Kaniwa N, Komamura K, Kotake T, Morishita H, Tomoike H, Kamakura S, Kitakaze M, Tamura T, Yamamoto N, Kunitoh H, Yamada Y, Ohe Y, <u>Shimada Y</u> , Shirao K, Minami H, Ohtsu A, Yoshida T, Saijo N, Kamatani N, Ozawa S, Sawada J.	Genetic variations and haplotype structures of the ABCB1 gene in a Japanese population: an expanded haplotype block covering the distal promoter region, and associated ethnic differences.	Ann Hum Genet	70	605-22	2006
<u>島田安博</u> .	大腸癌治療における経口フッ化ピリジンの役割 -現状と今後の展望-	Mebio Oncology	3	52-57	2006
江口貴子, <u>島田安博</u> .	大腸癌に対する化学療法.	別冊・医学のあゆみ	3	666-70	2006

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
津田南都子, 山田康秀, <u>島田安博</u> .	オキサリプラチン(L-OHP).	臨床腫瘍 プラクテ イス	2	301-3	2006
大塚知信, 鈴木美枝子, 加藤裕久, 橋本浩伸, 米村雅人, 牧野好倫, 樋 口順一, 北條泰輔, <u>島田安博</u> .	FOLFOX 療法におけるオキサリプラ チン注射薬の安定性.	医療薬学	32	1027- 32	2006
<u>島田安博</u> .	臨床試験を始めるときの心得 臨床 試験の ABC.	日本医師 会雑誌	135	154-8	2006
高張大亮, <u>島田安博</u> .	Cetuximab を用いた大腸癌に対する 抗体療法.	医学のあ ゆみ	219	29-33	2006
山尾剛一, <u>島田安博</u> .	プロトンポンプ阻害剤(P P I).	日本医事 新報	4308	43-5	2006
高張大亮, <u>島田安博</u> .	大腸癌の化学療法.	外科治療	95	602-1 1	2006
松原淳一, <u>島田安博</u> .	FOLFOX の実際と副作用対策.	コンセン サス癌治 療	5	216-8	2006
榎本雅之, <u>杉原健一</u>	大腸癌治療ガイドライン(2005年版)	外科	68	159-1 69	2006
<u>杉原健一</u>	大腸癌治療のコンセンサス	コンセン サス癌治 療	5	70-74	2006
Goya T, <u>Asamura H</u> , et al.	Prognosis of 6644 resected non-small cell lung cancers in Japan: A Japanese lung cancer registry study.	Lung Cancer	50	227-3 4	2005
<u>Asamura H</u> , et al.	How should the TNM staging system for lung cancer be revised? A simulation based on the Japanese Lung Cancer Registry populations.	J Thorac Cardiova sc Surg	132	316-9	2006

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
國土典宏、幕内雅敏.	肝癌診療ガイドライン（2005 年度版）.	外科	68(2)	168-173	2006
國土典宏、幕内雅敏.	肝癌診療ガイドライン	コンセンサス癌治療	5(2)	76-79	2006
國土典宏、幕内雅敏.	特集・肝がん治療のすべて：アルゴリズム（治療選択）	肝胆膵	53(5)	645-651	2006
國土典宏、幕内雅敏.	肝癌治療法選択のアルゴリズム	臨床消化器内科	21(7)	1051-1057	2006
Makuuchi M, <u>Kokudo, N.</u>	Clinical practice guidelines for hepatocellular carcinoma: the first evidence based guidelines from Japan.	World J Gastroenterol	12(5)		2006
<u>Kokudo N</u> , Sasaki Y, Nakayama T, Makuuchi M.	Dissemination of evidence-based clinical practice guidelines for hepatocellular carcinoma among Japanese hepatologists, liver surgeons, and primary care physicians.	Gut		in press	2007

2007年

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
祖父江友孝	わが国における地域がん登録の現状と諸外国の動向	工藤翔二監修	肺がんのすべて	文光堂	東京	2007	16・18
東 尚弘	医療の質の定義と評価方法 ( Exploration in Quality Assessment and Monitoring, Volume 1. Definition of Quality and Approaches to Its Assessment、翻訳)			iHOPE 出版	東京	2007	

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
祖父江友孝	わが国のがん登録の体制整備について	呼吸	26(1)	31-35	2007
祖父江友孝	がん対策基本法とがん登録	クリニカル・ブ ラクティス	26	225-228	2007
祖父江友孝	がん登録の意義とその有効活用事例	公衆衛生	71	27-30	2007
東尚弘, 祖父江友孝	がん医療水準均てん化をめざした取り組み	日本外科学会 雑誌	109(1)	45-49	2008
Sobue T, Katanoda K, Marugame T.	Trends of lung cancer mortality in selected countries.	IARC Handbook of Cancer Prevention, Tobacco Control	11	307-22	2007
祖父江友孝.	がん登録.	からだの科学	253	202-6	2007
Oh EH, Imanaka Y, Hayashida K, Kobuse H.	Meta-analysis comparing clinical effectiveness of drug-eluting stents, bare metal stents, and coronary artery bypass surgery.	International Journal of Evidence-Base d Healthcare	5	296-304	2007
Hayashida K, Imanaka Y, Fukuda H.	Measuring hospital-wide activity volume for patient safety and infection control: a multi-centre study in Japan.	BMC Health Serv Res	7(1)	140	2007
Kuwabara K, Imanaka Y, Matsuda S, Fushimi K, Hashimoto H, Ishikawa KB, Horiguchi H, Hayashida K, Fujimori K.	Impact of age and procedure on resource use for patients with ischemic heart disease.	Health Policy			2007
Evans E, Imanaka Y, Sekimoto M, Ishizaki T, Hayashida K, Fukuda H, Oh EH.	Risk adjusted resource utilization for AMI patients treated in Japanese hospitals.	Health Economics	16 (4)	347-359	2007
Hamashima C, Saito H, Sobue T	Awareness of and adherence to cancer screening guidelines among health professionals in Japan	Cancer Science.	98(8)	1241-1247	2007
濱島ちさと	CPG レビュー: 胃がん検診ガイドラ イン 胃がん検診ガイドライン・レ ビュー、	Minds 医療情 報サービス	5		2007
濱島ちさと	胃がん検診: 最新のエビデンスにつ いて、	Minds 医療情 報サービス	7		2007
濱島ちさと	Report: GIN と診療ガイドラインの 今後の課題	あいみつく	28(4)	20-22	2007
濱島ちさと	胃がん検診と死亡率減少効果	臨床消化器内 科	23(3)	327-334	2008
佐川元保, 中山富雄, 遠 藤千顕, 濱島ちさと, 斎 藤博, 祖父江友孝	肺がん検診ガイドライン・エビデ ンスレポート・レビュー	Minds 医療情 報サービス	9		2007